

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04313

研究課題名(和文) SNSにおける上方・下方螺旋メカニズムの解明

研究課題名(英文) Elucidating the mechanism of upward and downward process

研究代表者

長谷川 孝治 (Hasegawa, Koji)

駒澤大学・文学部・教授

研究者番号：20341232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：安心さがしとは、重要他者が本当に自分を大切に思っているかを確認する行動である。低自尊心者の安心さがしは他者からの拒絶を生むが、高自尊心者のそれは受容を生起させる。本研究は、この上方・下方過程がSNSで見られるかを検討した。分析の結果、SNSでも安心さがしが行われ、低自尊心者に顕著であることが示された。また、低自尊心者は安心さがしを受容された場合、さらに安心を探すことも示された。このことは自己本位的な安心さがしの受け手はポジティブな気分にならないのに詳細を尋ねる不適応な対人相互作用の存在を示唆するものであった。逆に、他者本位的な安心さがしは、受け手との良好な相互作用を生起させることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、親密な二者関係における低自尊心者の安心さがしという不適応な対人行動がSNSにおいても同様に見られることを示すという点で、社会心理学における自己と対人関係に関する領域に新たな知見を提供するという学術的意義がある。また、このことは、現代社会において若者を中心とした人々が行うSNSでの行動を、従来のface-to-faceの対人関係で蓄積された社会心理学の枠組みを拡張する形で読み解くことが可能であることも意味する。これによって、本研究の知見は、SNS依存等の不適応な対人行動がなぜ生じ、いかにすれば制御できるかを考えるための視座を与えようという社会的意義も持つと考える。

研究成果の概要(英文)：Reassurance seeking is the behavior of confirming that one's significant other truly cares about one's self. Reassurance-seeking by low self-esteem individuals leads to rejection by others, while that by high self-esteem individuals leads to acceptance. This study examined whether this upward and downward process is observed in social networking services (SNS). The analysis showed that reassurance-seeking also occurs in SNS, and is more pronounced among low self-esteem individuals. It was also shown that low self-esteem individuals search for further reassurance when reassurance seeking is accepted. This suggests the existence of maladaptive interpersonal interactions in which recipients of self-oriented reassurance-seeking do not feel positive but ask for more details. Conversely, the other-oriented reassurance-seeking was suggested to generate a positive interaction with the recipient.

研究分野：社会心理学

キーワード：安心さがし 自尊心 SNS Twitter LINE Instagram 自己本位 他者本位

1. 研究開始当初の背景

Twitter などのソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) の普及によって、自らの行動を友人だけでなく、不特定多数の見知らぬ他人にまで開示する人々が多くなってきた。例えば、「なう」や「だん」のように、自分が今どこにいるのか、また何をしたのかといった日常的な事柄をことあるごとに投稿するという具合に、である。なぜ、人々はそのような投稿をするのか。

この問題について考える際、我々がこれまで行ってきた安心さがし研究の知見が有効となる。安心さがしとは、重要他者に本当に自分のことを大切に思ってくれているかを確認する行動のことである。これまでの研究から、自尊心の低い人が、親友に対して繰り返し確認する安心さがし行動をとった場合、相手から疎まれ、親友からの実際の評価を低下させるだけでなく、親友からの評価の推測である反映的自己評価を低下させ、抑うつ傾向を高めるという下方螺旋過程の存在が示されてきた (長谷川・浦, 2002; 長谷川, 2008)。逆に、自尊心の高い人は、安心さがしをしても他者から拒絶されず、受容される上方螺旋過程ともいえる過程が存在する。これらの違いは、低自尊心者の安心さがしが自己の不安のみに焦点化された自己本位的行動であるのに対して、高自尊心者の安心さがしは他者を気遣う他者本位的行動であると考えられる (長谷川, 2015)。

このような安心さがし行動に関する研究から、現代の若者を中心とした人々が行う SNS での行動を捉えると、次のように考えることができる。親友に対する安心さがし行動の尺度得点の平均値は、それほど高くはないことが示されている (長谷川, 2014)。その理由のひとつに、安心さがしを親友に対して行うのは、恥ずかしく、評価懸念が高まることがあげられる。この安心さがしを行う上での一種のハードルを下げる効用が、SNS にはあると考えられる。SNS をはじめとするオンライン空間の特徴のひとつに、匿名性の高さがある (Joinson, 2003)。目の前に他者がいない状況で、何気なく、自分の今の状態や不安な気持ちをつぶやく行動は、まさに不特定多数の見知らぬ他者への安心さがしであるといえる。このような SNS 上の安心さがしは、多数の他者に向けられるがゆえに、安心を返してもらえる可能性も高まり、低自尊心者を適応に向かわせる可能性もある。しかしながら、やはり過度になりすぎた場合には、他者から暗黙裏に拒否され、長期的には不適応を生じさせると考えられる。また、高自尊心者は、SNS でも、他者本位の適度な安心さがしを行い、他者からの受容を獲得する可能性もある。

我々は、このような予測の一部を検討するために、恋人または配偶者がおり、Twitter を利用している人を対象に予備的な調査を行った。分析の結果、低自尊心者で恋人や配偶者に対して安心さがし行動をとる人ほど、Twitter のフォロワーに対して、(1) 同情希求や雰囲気作り、愚痴を言いたいという動機からネガティブな内容のツイートをし、(2) フォロワーの気を引く安心さがしツイートをすれば、(3) 結果として、受容的なリプライがあってもなくても、安心した気分にならないことが示された (長谷川, 2016a; 2016b; 長谷川・古里, 2016)。これらから、低自尊心者で安心さがしを行う人が、SNS 上でも同様の安心さがしツイートをを行った結果、他者からの受容反応にかかわらず、ネガティブな自己を確認する、自己成就予言的なプロセスが存在することが示唆された。これら先行研究の結果を基に、本研究において、以下の予測を検討する。低自尊心で安心さがしを行う人は、SNS 上でも自己本位の安心さがしを行い、フォロワーから拒絶されるか、あるいは反応されないだろう。それに対して、高自尊心で安心さがしをする人は、SNS 上でも他者本位の適度な安心さがしを行い、他者から受容されるだろう。

2. 研究の目的

安心さがしとは、重要他者に本当に自分のことを大切に思ってくれているかを確認する行動である。上述したように、低自尊心者がとる安心さがし行動は、他者からの拒絶を引き起こす下方螺旋過程の様相を呈し、逆に、高自尊心者がとる安心さがし行動は、受容を引き寄せる上方螺旋過程を生み出す。この下方・上方螺旋過程の存在はこれまで Face-to-face の対人関係において実証されてきた。しかしながら、オンライン上の他者との関係において、同様のプロセスが存在するかは、未だ十分に検討されていない。本研究の目的は、SNS 上の他者に対する安心さがしが、他者からの拒絶および受容に及ぼす影響について検討することによって、ネットが普及した現代における適応的な相互依存関係の様相を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究では、以下のように、取得済の (1) の調査データを分析するとともに、(2) ~ (5) の調査を実施し、分析を行った。

(1) **Twitter パネル調査**: Twitter 利用者 579 名 (男性 279 名, 女性 300 名: 18 ~ 39 歳) に対する 2 ヶ月の間隔をあけた 2 波のパネル Web 調査。Twitter において、安心さがし的なネガティブツイートをするどの程度行うか等の項目を含む。

(2) **LINE 調査**: LINE 利用者 500 名 (男性 250 名, 女性 250 名, 18 ~ 39 歳) に対する Web 調査。LINE において、安心さがし的なネガティブツイートをどの程度行うか等の項目を含む。

(3) SNS 安心さがし想定法調査: Twitter と LINE の両方を利用している 563 名 (男性 273 名, 女性 291 名, 18~35 歳) を分析対象とした。調査参加者が安心さがしをする想定場面と拒絶・受容条件を Twitter と LINE のそれぞれで提示し, Twitter (拒絶・受容) × LINE (拒絶・受容) で逆の提示順序も含めた 8 パターンを設定し, 参加者をランダム配置した。

想定場面は, 「あなたは今日どうしようもなくつらいことがありました。そんなとき、ふと思いついて、Twitter に書き込むとすると、どのようにツイートしますか」という状況を提示し, その際の行動を問う形であった。そこで何らかの行動をとると回答した場合, フォロワーからの反応によって拒絶条件と受容条件 (参加者間) を設定し, 回答者にさらなる行動選択をさせた。拒絶条件は, 「そのツイートに関して、しばらく待ってみましたが、フォロワーからは特に何のリプライ (返信) もありませんでした」という状況であり, 受容条件は, 「そのツイートに関して、何人かの人たちから心配するようなりプライがありました。」という状況であった。ここでも何からの反応をとった場合には, さらに同様のフォロワーからの反応を返し, 計 4 回まで繰り返し提示した。LINE でも同様の想定および条件設定を行った。

(4) SNS 安心さがしへの反応調査: Twitter と LINE の両方を利用している 800 名 (男女均等割付, 18~35 歳) を分析対象とした。調査参加者と Twitter (と LINE) で最も親しい人を想定させ, その人が安心さがしをする想定場面と, その安心さがしの内容の条件 (自己本位・他者本位) を想定させ, Twitter (自己本位・他者本位) × LINE (自己本位・他者本位) で逆の順序も含めた 8 パターンに, 参加者をランダム配置した。

Twitter のフォロワーの中で「よくタイムラインでやりとりする最も親しい人」を想定させた後, その親しい人が, 「ああ, ダメだああ」というツイートした際, どのような行動をとるかを回答させた。そこで何らかの行動をとると回答した場合, 「あなたの返信や DM に対して, そのフォロワーから「実は今日大変なことがあって…」と返信があった」とされ, その際の行動をさらに選択させた。ここで, 自己本位条件は, 「実は今日大変なことがあって…」という自分自身のことのみを返信する条件であり, 他者本位条件は「ありがとう。大丈夫だよ。ちょっと今日大変なことがあったんだけど, 最近君はどう?」と相手を気遣う返信をする条件であり, 参加者間要因であった。続いて, 「さらにその人からつらかったことに対する返信があった」とされ, それに対しても同様の行動選択をさせた。

(5) Instagram 安心さがし調査: Twitter と Instagram の両方を利用している 504 名 (男性 205 名, 18~39 歳) に対する Web 調査を行った。Twitter や Instagram において, 安心さがし的なネガティブツイートをどの程度行うか等の項目を含む。

4. 研究成果

(1) Twitter における安心さがし

どのような人が安心さがしツイートをするのか

安心さがし的なネガティブツイートや, 単なるネガティブツイートをどのような人が行うかについて検討したところ, 以下のことが明らかになった。

フォロワーからの注目や同情を求める動機が高く, 自尊心が低いほど, フォロワーからのリプライを得るために, 安心さがし的なネガティブツイートをより頻繁に行っていた。

自尊心が低く, 同情希求動機が高いほど, ネガティブツイートを頻繁に行っていた。

自尊心が高く, 同情希求動機が低いほど, ネガティブツイートをあまり行っていなかった。

これらのことから, SNS における低自尊心者のネガティブな安心さがし的なツイートの確認され, 同情・注目希求動機の高さがこの現象の生起に關与していることが示唆された。

安心さがしツイート後のリプライによって, どのような感情が生起するのか

ネガティブツイートをした後に, フォロワーからどのようなリプライを受けたかによって, どのような感情が生起するかについて検討したところ, 以下のことが示された。

ネガティブツイート後, フォロワーから気遣いの返信や共感的返信を実際に受けた人ほど, 安心をより感じていた。

自尊心の低い人は, ネガティブなツイートを行っていない場合に, フォロワーから共感的反応がないと安心を得ることができなかった。

自尊心の高い人は, ネガティブツイートをより多くした場合に, それに対して, 共感的反応が得られなければ, 安心感情が低くなった。

また, ポジティブツイートをした後に, フォロワーからどのようなリプライを受けたかによって, どのような感情が生起するかについて検討したところ, 以下のことが示された。

自尊心の高い人が, 賞賛を受けた場合に, ポジティブツイートをするほど, 快や穏やか感情が高かった

自尊心の高い人が, 賞賛を受けなかった場合に, ポジティブツイートをするほど, 不快感情が高かった

自尊心の低い人が, 賞賛を受けなかった場合に, ポジティブツイートをするほど, 快感情が高かった

これらの結果から, 高自尊心者はネガティブおよびポジティブなツイートをした際に, 他者からの反応と対応する形で, 感情反応が生起することが示唆された。それに対して, 低自尊心者は他者の反応をうまく検知できていないことが示唆された。

(2) LINE における安心さがし

どのような人が安心さがし投稿をするのか

LINE におけるネガティブ投稿はどのような人が行うかを検討したところ、友だちからの注目希求動機が高く、自尊心が低いほど、LINE での安心さがし投稿をした経験頻度が高いことが示された。

また、LINE 利用者がネガティブ投稿をした際に、他者からどのような反応があれば、どのような感情が生起するかを検討したところ、次のことが明らかになった。

日頃からネガティブな投稿をする人ほど、共感や否定をされた際に不安に感じやすく、既読スルーをされると逆に安心感情が高かった

自尊心が低いほど、共感や否定反応受領時に不安感情が高かった

注目希求動機が高いほど、いずれの反応時でも不安感情が高かった

同情希求動機が高いほど、共感や否定を得ると安心感情が高く、既読スルーされると安心感情が低かった

自尊心が低く、注目希求動機が高いほど、共感受領時に安心が低かった。

これらのことから、LINE 上での安心さがし投稿が少ないながらも行われ、低自尊心で友だちの注目を集めたいという動機を持つ人で安心さがし投稿が顕著に見られることが明らかになった。また、LINE でのネガティブ投稿に対する共感的な反応が、必ずしも安心につながらず、不安を高めることが示唆された。

LINE におけるポジティブな安心さがし投稿はどのような人が行うかを検討したところ、自尊心が低く、友だちとの関係をよくしたいという関係希求動機が高いほど、ポジティブな安心さがし投稿を行うことが示唆された。

安心さがしツイート後の返信によって、どのような感情が生起するのか

LINE 上でのポジティブな投稿をした際に、他者からどのような反応があれば、どのような感情になるかを検討したところ、高自尊心者において、注目・関係希求動機が高いほど、他者から賞賛・共感反応を受けた際に、ポジティブ感情が生起しやすいことが示された。

これらのことから、低自尊心者で関係希求動機が高いほど、ポジティブな安心さがし投稿を行うけれども、それに対応する形で他者が賞賛・共感的な返信をしても、ポジティブな感情は高まらないことが示唆された。また、高自尊心者では、関係希求動機の高さに応じてポジティブな安心さがし投稿をし、他者からの賞賛によって、ポジティブ感情が生起するという好循環プロセスが機能していることが示唆された。

(3) Twitter と LINE での安心さがし想定法調査：受容・拒絶状況における安心さがし投稿の生起過程

Twitter と LINE における受容・拒絶状況を想定させ、各状況においてどのような行動をとるかを検討した。その結果、Twitter では、受容条件において自尊心が低いほど、安心さがしツイートを行っていた（図1）。

また、LINE では拒絶条件よりも受容条件において、友だちに対する安心さがし投稿を行っており、自尊心による差は見られなかった。

さらに、これらの過程に、自分や他者に対して思いやりを抱くことへの恐れである、慈悲への恐れが媒介しているかを検討した。その結果、Twitter では拒絶条件で自尊心が低いほど、自己への慈悲の恐れが高く、それが安心さがしツイートを増やす媒介過程が示された。これに対して、受容条件では、上述のように、自尊心が低いほど安心さがしツイートが多くなる直接効果が示された。LINE では、自尊心が低いほど慈悲への恐れが高い直接効果のみが示された。

これらの結果から、Twitter という不特定多数のフォロワーがいる SNS において、低自尊心者は安心さがしツイートをし、それを相手から気にかけてもらえた場合に、さらに安心さがしツイートを行うことを示唆するものである。低自尊心者の安心さがしを促進するのは、相手の一度の受容かもしれない。これに対して、LINE の友だちは、実際に対面でも交流のある友だちが多いため、受容してくれればさらに安心さがしを行うし、拒絶スルーされればそれ以上の安心さがしは行わない可能性がある。

(4) Twitter と LINE での安心さがしへの反応調査：自己本位的・他者本位的安心さがし投稿に対する感情・行動反応

Twitter と LINE での安心さがしがフォロワーからどのような反応を生じさせるかについて、自分自身のことのみを返信する自己本位的安心さがし条件と、相手を気遣う返信をする他者本位安心さがし条件を設定し、検討した。

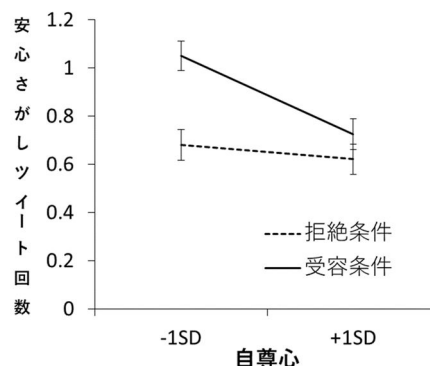


図1 Twitterにおける自尊心と条件の交互作用

まず、感情反応に関する分析の結果、Twitter では、1 回目の安心さがしよりも 2 回目、3 回目の安心さがしの方が、ポジティブ感情が高かった。また、2 回目の安心さがしにおいて、自己本位条件よりも他者本位条件の方が、ポジティブ感情が高かった。

LINE でも上述と同様の結果が示されたが、自尊心が高い人の自己本位条件では安心さがしの時点間の差が有意でなかった。

これらの結果から、SNS 上の安心さがしは繰り返されてもポジティブ感情が高くなることが示唆された。ただし、Twitter 上の安心さがしが他者本位でなされた場合、特にポジティブ感情を高めるが、さらに行くと自己本位的安心さがしと同程度にやや低くなることも明らかにされた。

次に、行動反応に関する分析の結果、Twitter・LINE とともに 2 回目の安心さがしの自己本位条件では、他者本位条件に比べて、詳しい状況を尋ねる返信が多く、状況理解や話題転換の返信が少なかった。

LINE の 3 回目の安心さがしの自己本位条件では、他者本位条件よりも、詳しい状況を尋ね、状況に理解を示す返信が多く、話題転換は少なかった。

これらの結果と、上述の感情反応の結果を併せて考えると、自己本位的な安心さがしに対して、受け手はポジティブな気分にならないのに、相手の詳しい状況を尋ねてしまい、巻き込まれるという対人プロセスが生じることが示唆された。このことは、特に、LINE という FIT でも交流のある友だちとつながるパーソナルな SNS で顕著であった。

一方、他者本位的な安心さがしに対して、受け手はポジティブな気持ちになり、その状況を理解した上で話題を展開させていくというプロセスが生じることが示唆された。

(5) Twitter と Instagram での安心さがし調査：自己本位的・他者本位的安心さがしに対する受容的返信によって、どのような感情が生起するのか

Twitter での安心さがしに対して、フォロワーから受容的返信があった場合、どのような感情反応を生じさせるかについて、自己本位的・他者本位的な安心さがしの観点から検討した。その結果、低自尊心で自己本位的安心さがしをする人は、フォロワーから気遣われたり、共感されたりするほど、不安を感じることを示された。

これらの結果から、低自尊心者で自己本位的な安心さがしをする人は、気遣い、共感されるほど、ネガティブな自己を確認することが示唆された。

同様に、Instagram での安心さがしについても検討した結果、低自尊心で、他者本位でも自己本位でも安心さがし投稿をする人は、気遣いや共感といった受容的返信をされるほど、不安感が高くなることを示された。逆に、高自尊心で他者本位的安心さがしをする人は、気遣いが少ないほど、不安を感じることを示された。

上述の Twitter の結果が自己本位的安心さがしのみで見られたのに対して、Instagram では他者本位的安心さがしでも同様の結果が示された。Instagram の写真を投稿して自分の生活を他者にアピールするという性質のため、他者本位といいながらも、フォロワーからの受容を期待する自己本位的な安心さがしになってしまう可能性が考えられる。

以上の研究知見を総合すると、Twitter や LINE といった SNS においても安心さがしが行われ、特に、自尊心が低い場合に顕著であることが確認された。さらに、Twitter という不特定多数のフォロワーがいる SNS において、低自尊心者は安心さがしツイートをして、それを相手から気にかけてもらえた場合に、さらに安心さがしツイートを行うことが明らかにされた。拒絶条件では安心さがしが生起しないことを考えると、安心さがしを引き出すのは、フォロワーからの受容であるという皮肉な結果であるといえる。

このことは、安心さがしに対する反応の知見と併せて考えると了解可能となる。自分自身のことだけを考えた自己本位的な安心さがしに対して、受け手はポジティブな気分にならないのに、相手に詳細を尋ね、巻き込まれるという不適応な下方螺旋過程が生起する。これは低自尊心者だけのせいではなく、受け手が行った一度の受容という機能不全的な相互作用の結果であると考えられる。それに対して、他者本位的な安心さがしには、受け手はポジティブな気持ちにさせ、その状況を十分に理解した上で話題を展開させていくという上方螺旋過程を生じさせる効果があると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 WATANABE YAYOI、KOBAYASHI TOMOKO、HASEGAWA KOJI、KOZIMA HIDEKI、MATSUMOTO YUKI、SAWAUMI TAKAFUMI | 4. 巻 61 |
| 2. 論文標題 Emotional Development and Education in a Digital Society | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 The Annual Report of Educational Psychology in Japan | 6. 最初と最後の頁 279 ~ 290 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5926/arepj.61.279 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里・古谷嘉一郎・佐藤広英 |
| 2. 発表標題 SNS上の安心さがし行動に対する感情反応の検討 安心さがしされるとどのような気持ちになるか |
| 3. 学会等名 日本社会心理学会第63回大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里・古谷嘉一郎・佐藤広英 |
| 2. 発表標題 SNS上の安心さがしに対する行動反応の検討 安心さがしに対して、どのような行動をとるか |
| 3. 学会等名 日本心理学会第86回大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里・古谷嘉一郎・佐藤広英 |
| 2. 発表標題 SNS上の拒絶・受容状況における安心さがし行動の生起過程の検討 低自尊心者はどのような状況で安心さがしツイートするのか |
| 3. 学会等名 日本社会心理学会第62回大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里・古谷嘉一郎・佐藤広英 |
| 2. 発表標題 SNS上の拒絶・受容状況における安心さがし行動の生起過程の検討(2) 自己に対する慈悲への恐れへの仲介効果 |
| 3. 学会等名 日本心理学会第85回大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里・古谷嘉一郎・佐藤広英 |
| 2. 発表標題 SNS上の拒絶・受容状況における安心さがし行動の生起過程の検討(2) |
| 3. 学会等名 日本グループ・ダイナミクス学会第67回大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里 |
| 2. 発表標題 自尊心と思いやり目標と自己イメージ目標が安心さがしツイトに及ぼす影響 |
| 3. 学会等名 日本心理学会第84回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里 |
| 2. 発表標題 自尊心と思いやり目標と自己イメージ目標が安心さがしツイトに及ぼす影響(2) 2つの安心さがしツイトに関する分析 |
| 3. 学会等名 日本社会心理学会第67回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里 |
| 2. 発表標題 自尊心とネガティブツイートとフォロワーからの返信が感情反応に及ぼす影響 ネガティブツイートへの共感・気遣いは、安心を与えるか？ |
| 3. 学会等名 日本グループ・ダイナミックス学会第66回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里 |
| 2. 発表標題 自尊心とポジティブツイートとフォロワーからの返信が感情反応に及ぼす影響 ポジティブツイートへの賞賛・共感はいかなる感情を生起させるか？ |
| 3. 学会等名 日本社会心理学会第66回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hasegawa, K. & Furusato, Y. |
| 2. 発表標題 Who tweets negative things about themselves for getting replies from followers? Effects of self-esteem and the motivation for negative tweets. |
| 3. 学会等名 The 2018 Biennial Conference of the International Association for Relationship Research (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里 |
| 2. 発表標題 LINE上での安心さがし投稿に対する自尊心とネガティブ投稿動機の効果 誰が、なぜ安心さがし投稿をするのか |
| 3. 学会等名 日本社会心理学会第59回大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里 |
| 2. 発表標題 誰が、なぜ“盛る”のか？ LINE上でのポジティブな安心さがし投稿に対する自尊心と投稿動機の効果 |
| 3. 学会等名 日本グループ・ダイナミックス学会第65回大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 長谷川孝治・古里由香里 |
| 2. 発表標題 弱音に対する共感は、人を安心させるか？ LINE上でのネガティブ投稿への他者からの反応受領時の気分に対する自尊心とネガティブ投稿経験・動機の効果 |
| 3. 学会等名 日本心理学会第82回大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Koji HASEGAWA & Yukari FURUSATO |
| 2. 発表標題 Who tweets negative things about themselves? Effects of self-esteem, reassurance seeking, and motives for negative tweets on twitter posts. |
| 3. 学会等名 The 19th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 佐藤 広英 (Sato Hirotsune) (00598691) | 信州大学・学術研究院人文科学系・准教授 (13601) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 研究分担者 | 古谷 嘉一郎 (Furutani Kaichiro) (80461309) | 関西大学・総合情報学部・教授 (34416) | |
| 研究分担者 | 古里 由香里 (Furusato Yukari) (20793095) | お茶の水女子大学・教学IR・教育開発・学修支援センター・特任講師 (12611) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |